

❖ 高校生のみなさんへ—書評を書いてみよう❖

一冊の本には、世界や人についての人類の知が整理されてまとめられています。未知の事柄について、あるいは、話題となっている問題について理解するためには、書物はとてもよい手がかりとなります。ぜひ皆さんも一冊の本を読んでみてください。そしてその小さな一冊から、世界と人の理解の地平を広げてみましょう。

本を読んで自分の意見を書くことは、本についての理解を深めるのにとってもよい経験になります。皆さんは読書感想文を書いた経験があると思います。書評は、読書感想文とどこが違うのでしょうか？

感想文は、書物を読んで心に浮かんだ自分の想いを書きます。ですから、その本を読んで感じたことを書けばよいのですが、書評の場合は、本をまだ読んでいない人に、本についての内容を紹介し、その本についてのあなたの意見を伝えるものです。ですから、書評はより他者を意識して書くところが感想文と異なりますね。高校生としてのあなたの視点からみて、その本から何が得られたのか、どこがよかったのかをぜひ客観的に伝えて、あなたなりの書評を書いてみてください。

書評を書くために、特に一定のルールがあるわけではありません。「神戸女学院の100冊」のなかには、文学作品も含まれていますが、ほとんどが、それぞれの分野が対象としている世界や人間の問題を、最近の研究成果に基づいて説明している書物です。こうした書物の場合でも、その内容をまとめ、意見を書く場合の基本的な手順は、読書感想文の場合とあまり変わりません。ただより客観的に書く工夫を以下にあげますので、参考にしてみてください。

① 内容の要約をしてみよう。

題名や解説から面白そうだった本を選んだら、実際に本を読む前に、全体はどんなテーマを扱っているのか、また全体を通して何がわかるのか、著者は誰で、どんな仕事をしてきた人なのか、題名や著者欄をみてみましょう。また、目次があれば、全体の構成も確認してみてください。それから、本を読んで、章ごとに、あるいは、全体の内容を大づかみに、まとめてみます。

② 内容に対するあなたの意見を書こう。

次に、上記でまとめた内容について、あなたはどのように思ったのか、自分の意見を書いてみましょう。もし自分なりの問いやきっかけを持って読み始めたのであれば、その問いに答えてくれたかどうか考えてみましょう。

あるいは、タイトルから想像していたこととは違って、思った以上に面白いと思ったことがらや発見があったとしたら、どの部分でそのように思ったのか、理由を添えて書くようにしてみてください。

もしよくわからないところ、あるいは自分は賛同できないと思うところがあったとしたら、理由も添えて指摘してみましょう。高校生だからわからないのだ、と思う必要はありません。

文中の文章を引用したときは、引用符を付けるとよいでしょう。

また、もし書かれている内容について疑問に思ったら、別の関連図書で、他の考え方があるのではないかなどを調べてみて紹介するとさらによいでしょう。

③ 上記を文章にまとめよう。

本の内容の紹介、内容に対する自分の意見を述べたあと、この本に対するあなたの評価を書き、結論として締めくくります。最後に、書物の内容の簡単な要約とあなたがもっとも述べたい意見を記して200字程度にまとめ、概要としましょう。